

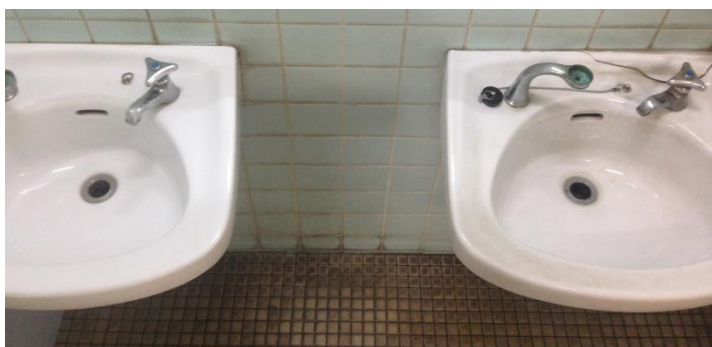
第2回京都山城便教会

平成27年2月22日（日）

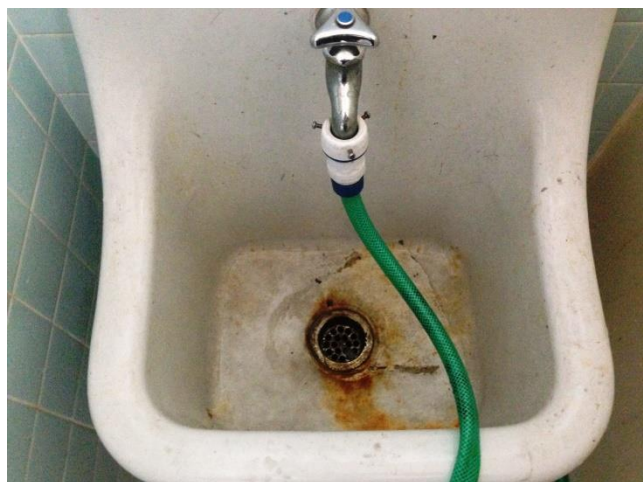
2月22日（日）に、京都府山城地域にある城陽市立東城陽中学校にて、第2回京都山城便教会を開催させていただきました。この学校は、私自身が初任者として勤めた学校で、教師としての在り方、生き方を学んだ思い出の地であり、教師としての原点でもあります。そういった場所で、25名の方々と一緒にトイレ掃除をさせていただき、心より御礼申し上げます。

第2回も大谷先生から、「生徒のことを考えながらトイレ掃除に向かう」ということを提示いただきながら、会を進めていきました。「道具を大切にすることが、生徒を大切にすることにつながる」「自分は一生懸命でもやりすぎると傷をつけてしまうことがある」「左手を使うことで、覚悟が決まる」ということを確認した後、2班に分かれて活動しました。

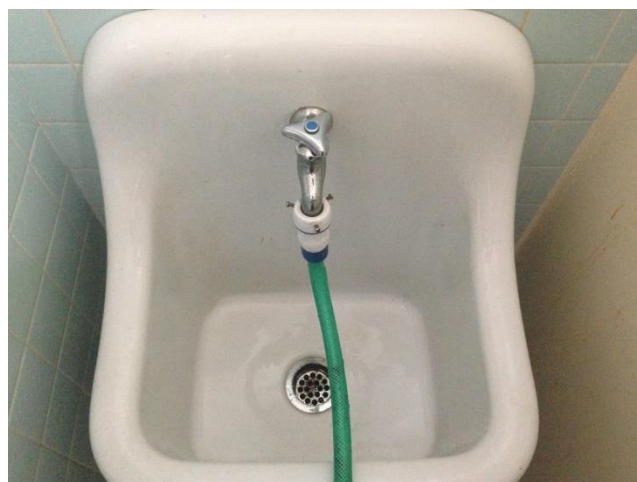
今回は時間も短かったため、すべてはできなかつたのですが、参加いただいた先生方からは「もうちょっとやりたい」という声が聞こえてきました。すかさず、ベテランの方々が、「今日1日やったからといって、何も変わらない。この続きをぜひ、それぞれの学校でやってください」と言われました。また、ある方は、わざと違いを残されました。右の写真のように、左の洗面台はピカピカに、右の洗面台はそのままとされました。そして、その学校の生徒に無言のメッセージを残されました。教師は、すぐに短時間でパーフェクトを目指しますが、時間がなければ、その中で何ができるのかを瞬時に判断されたベテランの方の姿に、大切なことを学ばせていただきました。



<Before>



<After>



今回の便教会では、また新たなことを感じました。それは「支えられている温かさ」でした。世話役として、事前に会場や日時の設定はさせていただきましたが、それ以外は来ていただいた皆様に助けられました。大谷先生と大木先生には、リーダーを務めていただき、急なお願いにも快く引き受けてくださり、皆様に心を配りながら、ていねいに、そして真剣に会を進めていただきました。京都掃除に学ぶ会の皆様は、それぞれの足りないところに、そっと手を差し伸べていただき皆様が気持ちよく進められるように、潤滑油の役割をしていただきました。また準備・片付けも快くさせていただきました。





同志の先生方は、横浜・兵庫・大阪から駆けつけてくださり、会のサポートをしていただきました。会場となった東城陽中学校からは7名の先生方が参加していただき、若いエネルギーをいただきました。後から聞いた話ですが、「うちでやっていただけなのに、うちの教員が少なかったら示しがつかない」と若い先生を中心に、声を掛け合ってくださいました。そんな思いに支えられている自分に気づき、涙が溢れてきました。今まで、リーダーとは、自分がぐいぐい引っ張って、すべての見本となって、その推進力で、まわりを引っ張っていくのだと思っていました。しかし、自分ひとりの力なんて、本当にちっぽけなもので、それぞれのできることを、それぞれが一生懸命にやれば、素晴らしいチームになるのだということを皆様から教えていただきました。この会の合言葉である「一人の百歩より、百人の一步」を肌で感じられた瞬間であり、改めてこの会を立ち上げて良かったと感じています。



トイレ掃除が終わってからは、皆様で映画「日本一幸せな従業員をつくる」を見させていただきました。開始5分で涙が溢れ、それ以降も涙が止まりませんでした。見ている皆様は、従業員を生徒や同僚教師に、会社を学級や学校に置き換えながら、見られたことと思います。私自身も、同僚教師とこのような関係でありたいと強く思い、こんな職員室をつくりたいと心底思いました。でも、主人公である柴田総支配人がされている一部分だけを見て、それを真似したらできるというものではありません。私達は、そこに「人を大切にする」という思いを掴み取り、それを自分の形で真似させていただくことが必要です。トイレ掃除でもそうですが、ある一部分だけを真似することはできます。しかし、どんな困難があってもそれをやり続けることは、いくら簡単なことであっても至難の業です。この平凡を非凡にやり続けた先に、感動があり、感謝があるのだと思います。

第2回の京都山城便教会を終えて大切に感じるのは、「続けていく」こと。この京都山城便教会も、3か月に1回のペースで、長く続けていきたいと思えます。ありがとうございました。(小笹 大道)